八紘辿りて九逵を巡らん十色の明日へといざやいざい。というでは、というないではいる。ますの五の言わずも六華で過ごさば北斗七星背を照らすい。このこのは、 字に集いし青二才共に三途の川は未だ遠く

飽くまで語り前途見遣れ 明ける月夜に継がれる人情 大きなる理想抱え来て の都に若人が

寮清ければ我等住まぬ みずきょ

迪を吞み込む時化呼べど いまのでしまり 恵みの雨も降りしきり 帆を張れば平らぐ濤燦然と

我等の寮得たるが如く ダポ ゚゚゚゚゚ 確と舵取れ其の身空はかかりと

> 我等と寮となれこの日々よ 咲きつ根張り胸を反れ な は は むね そ

琢磨しま

君と此処寮を以てきみここりょうもっ

歌い響かす己が大志 で相撃つ竜と虎